

# 大阪 割高感鮮明を受け軟地合いで月末入り

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は軟調様子見。2週間近くにわたって値動きがないが、他地区相場との乖離が目立つ展開にあることで、下落圧力を受けたまま月末を迎えている。同地区電炉のH2実勢値は5万6000～5万6500円(一部上値5万8000円)、新断バラ同6万5500～6万6500円(同6万7000円)、鋼グライ粉バラ同5万4500～5万5500円見当で推移。

今月の生産水準も比較的高い状態にあるほか、祝日後すぐに土日操業も控えることで、電炉筋にとって在庫回復を図りにくい状態には変わらない。今週25日と27日にかけて共同輸出船積みが行われ、これが月末の荷動きを不透明なものとしているため、「入荷増や他

社が下げたこない限り、身動きの取りづらい展開にあるのでは」(ヤード業者筋)という。

だが、月替わりと同時に、岸和田製鋼が2週間の定期炉休入りを予定していることで、需要減退が避けにくい展開にある。姫路地区の山陽特殊製鋼は25日から新断バラ1,000円、グライ粉以外500円の追加値下げを行い、他地区との価格差が鮮明なことも下落圧力を高めさせており、「需給要因が高止まりをもたらしたが、時間とともに、その支えを失ってくるだけに、タイミングを見ながら、他地区との格差解消をすすめていきたい」(電炉購買担当者)との声が日増しに強まっている。

## 新断バラ相場は小康状態も在庫増と輸出下落で先安ムード

(大阪) 新断バラ相場は先安ムード。輸出下落をはじめ、電炉筋によっては需要減退が目立ちつつあることで、下振れ圧力が強まっている。

今月11日から市況は反落の動きとなったが、13日の下げ改定については一部で据え置きも見られたことで、新断バラ実勢レベルについては6万5500～6万6500円(一部6万7000円)見当と上値については500円の小幅安にとどまっている。上値筋の様子見対応が他の電炉筋の値下げの抑止力となっているが、一部で13日の下げ幅を1,000円に拡大した後、在庫増を理由に、当面、

荷止めを打ち出す動きも見られる。また、輸出商談が先行して切り下がり、湾岸筋の集荷意欲も低いことで、市中からは電炉向けの出荷となり、荷受け筋も在庫積み増しが着々と図れているようだ。発生量の急減が品種間格差をもたらしたが、今後は発生回復が見込まれるなかで、海上オファーも値下がりへ向かい、高値圏での入荷については電炉側も消極的な意向を見せているため、「新断は他品種以上に下げ余地があると考えざるを得ず、H2との格差も縮まるのでは」(商社)との声が聞かれる。

## 山原商会、宇部市に150万円寄付

(山口) 金属スクラップディーラーの山原商会(本社=山口県宇部市、山原一紀社長)はこのほど、宇部市制施行100周年事業の活用100万円、市の子育て支援の充実化に向けて50万円の計150万円を宇部市に寄付した。

贈呈式は宇部市役所で開催。山原社長と森田栄一工場長が出席し、篠崎圭二市長へ目録を渡して、篠崎市

## 100周年事業や子育て支援に貢献

長からは感謝状が贈られた。山原社長は「宇部市で商売をさせて頂き、感謝の気持ちと共に地域事業の発展に貢献したいという思いから寄付を決めた。今後も地域貢献に努めていく」と話す。



森田工場長(中央)と感謝状を持つ山原社長(右)

## 自前で考え、自前で生きるために

(2011年8月伝言板No.311)



### 日々のつぶやき Vol.67 2021.11.26

■成功の模倣は成長への第一歩、猿真似は失敗への第一歩

▶「空から金が降ってきた」—1999年1月、「地域振興券」の配布が開始された時の見出し。やがて効果も見えぬまま忘れ去られたが、同じパラマキが繰り返されている。ツケが回ってくることを憂う声が大きくなっているのが、せめてもの救いだ(11月11日付日経春秋を一部抜粋し要約)

▶失敗から何も学ばず、問題を先送りした「悪質事例」です。有形無形を問わず、ツケは利子付きで自分に跳ね返ります。平時はただ気楽に過ごす時間ではなく、結果の再検証一仕組みと工夫を洗い直して調整し、次に備える準備期間です。結果の成否は最終的に運次第ですが、事前の備えと不断の努力(行動)を万全にしなければ、常敗しか道はありません。